

# 安芸高田市 発表資料

内閣府官民連携PFSプラットフォーム 特定テーマWG②

令和4年6月24日

# 安芸高田市の基礎情報・現状①

## 1)位置

広島県の中北部に位置し、北は島根県、南は広島市に接しており、面積は537.71平方キロメートル

## 2)地勢

市域内には、鷹の巣山、大土山、犬伏山等大小さまざまな山に囲まれ、市域面積の約8割を森林が占め、小起伏の丘陵と小盆地が帯状に形成

河川は、森林を縫って中央部を江の川が貫流し、北部は生田川、本村川が東流して江の川に注ぎ、南部は三篠川が西流して太田川に合流しており、市域全体として水と山々や田園の緑とが調和したこまやかで落ち着いた景観を形成

## 3)気象

気象は、中国山地内陸型の気候で、瀬戸内海沿岸に比べると、冬期の気温が低く、夏期は比較的冷涼な山間特有の自然条件を有し、市の北部は豪雪地帯に属している

# 安芸高田市の基礎情報・現状②

## 4)人口・世帯数

平成27(2015)年の国勢調査によると、安芸高田市の人口は29,488人、対平成7(1995)年比17.6%の減少を示し、自然減少と社会減少が相まって人口の減少傾向が継続している。

年齢3区分別人口の割合は、平成27(2010)年、年少人口(0～14歳)10.9%、生産年齢人口(15～64歳)50.4%、老年人口(65歳以上)38.7%となっています。高齢化率は広島県平均の27.5%を11.2ポイント上回っており、一方で少子化も進行している。

また、世帯数は、平成27(2015)年、11,623世帯、1世帯当たり人員は2.40人であり、広島県平均2.29人よりは多い人員であるものの、少子化、核家族化が進行している。

そして、産業別就業人口割合は、平成27(2015)年、第1次産業13.8%、第2次産業29.3%、第3次産業56.4%であり、広島県平均に比べると、第1次産業の割合が高いことが特徴

## 5)人口の見通し

国立社会保障・人口問題研究所が、平成25(2013)年3月に推計した人口見通しから、本市の総合計画の期間満了となる令和6(2024)年の人口を計算すると、26,326人と推計されています。平成27(2015)年に総合計画に掲げた目標人口は、趨勢ラインに1,200人を加えた「27,500人」と設定

# 安芸高田市の基礎情報・現状②

- 空き家バンクによる空き家成約件数50件、補助金活用による空き家解体が20件、計70件の空き家を解消している
- 過去の調査結果から空き家の発生件数が100件であることが判明。
- 空き家予備軍(65歳高齢者単身世帯)(現在、市全体の1/4が該当)の高齢化社会が加速することで増加傾向になることが予想され、今後空き家がさらに増え続けることへの懸念がある。
- 空き家の増加＝住みにくくなるまち＝持続可能なまちづくりが難しくなります。
- 空き家の発生以上に空き家の活用や処分を進めることで、移住定住人口や関係人口が増える期待＝持続可能なまちづくりに繋がると考えています。

# 安芸高田市における空き家の現状

- 空き家バンクによる空き家成約件数50件、補助金活用による空き家解体が20件、計70件の空き家を解消している
- しかし、過去の調査結果から空き家の発生件数が100件であることが判明。
- 空き家予備軍(65歳高齢者単身世帯)(現在、市全体の1/4が該当)の高齢化社会が加速することで増加傾向になることが予想され、今後空き家がさらに増え続けると予測される。
- 空き家の増加＝住みにくくなるまち＝持続可能なまちづくりが難しくなるため、空き家の発生以上に空き家の活用や処分を進めることで、移住定住人口や関係人口が増える期待＝持続可能なまちづくりに繋がると考えています。

# これまでの空き家対策の課題

- 空き家バンクへの相談をされる方、又は空き家バンク制度にある空き家バンク利用希望者登録データにある利用希望者に、いままで安芸高田市の生活、風土、歴史、観光等の魅力を伝えていなかったのではないか？また移住定住後の生活面（地域・就業等）でのアフターケアをしてこなかったのでは？
- そのことが移住定住に結びつくことができないケースとなっていたのではないかと考え、そこをしっかりとサポートできる＝空き家活用の促進に結びつくと考えています。
- そのフォローアップは行政が行うことではなく、安芸高田市の魅力を熟知している民間団体に委ねるほうが効果は高いと考えています。

## 【現在までの空き家利用希望者への対応】

ほとんど仲介不動産業者へまかせている状況

※安芸高田市の空き家バンク物件のほとんどに仲介不動産が入っている。

➡不動産業者に安芸高田市の魅力をうまく伝えることができているのか？

➡移住定住希望者にしっかりとしたサポートができているのか？

# 想定事業内容

## 《提案事業》

### 空き家利用希望者サポーター制度

※空き家利用希望者サポーターとは

空き家利用希望者に安芸高田市の生活環境や住まいについてのサポートを行う人

※空き家利用希望者とは

安芸高田市空き家利用希望登録をしている人

(令和4年5月11日現在167名登録、実績延べ数791名)(外国人含む)

これからは・・・

空き家利用希望者と仲介不動産業者との間に、市民による強力な移住定住のサポートを行う者が必要。

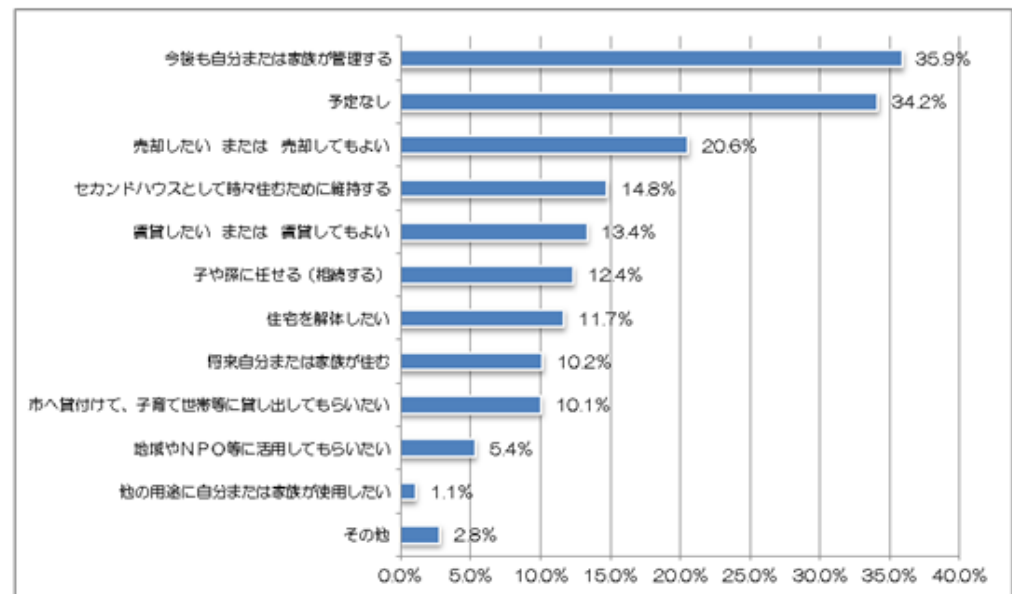
＝移住定住希望者が安芸高田市に魅力を強く感じる。

＝空き家バンクに希望の物件がない場合、サポーターが人づてで空き家物件を探す(人間関係によって、貸す気がなかった空き家所有者が「仕方ない、貸してやるか。」となることが期待できる)(空き家を「売買」「賃貸」を考えていない人は全体の約7割(資料1参照))。

## カ) 今後の利用・活用意向<sup>4)</sup>

「今後も自分または家族が管理する」が最も多く、続いて「予定なし」と続いている。「売買」「賃貸」してもよい方は、全体約3割となっている。<sup>4)</sup>

[今後の利用・活用意向—安芸高田市]<sup>4)</sup>



(資料1 平成26年度空き家の実態調査から)

# 空き家利用希望者サポーターに求めるもの

★移住定住希望者が安芸高田市にも住みたいとなる、住んでよかったと思える提案ができる者。

★暮らしや行事、習慣などの地域の情報に熟知し、移住者と地域住民との

円滑な交流を支援する者。

★行政と連携し、移住者の要望や悩み、地域住民とのトラブル等にきめ細かく対応するとともに、情報の共有化を図れる者。



# ご提案いただきたい内容

- 空き家利用希望サポーターとのPFSS契約を検討するにあたっての助言
- 空き家利用希望サポーター制度以外で、移住者が定住に繋がるような仕組みづくりについてのノウハウ